

立命館大学大学院
2017年度実施 入学試験

一貫制博士課程

先端総合学術研究科

先端総合学術専攻

入試方式	実施月	論文			外国語(英語)	
		領域	ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	公共	P.1~		P.9~	一部非公開
		生命	P.3~			
		共生	×			
		表象	P.6~			
	2月	公共	×		P.15~	
		生命	×			
		共生	P.12~			
		表象	×			
一般入学試験(自己推薦)	9月					
	2月					
社会人入学試験	9月					
	2月					
外国人留学生入学試験	7月 (2017年9月入学)					
	9月					
	2月					
学内進学入学試験	7月					
	9月					
	2月					
APU特別受入入学試験	7月 (2017年9月入学)					
	9月					
	2月					
飛び級入学試験	2月	公共	×		×	
		生命	×			
		共生	×			
		表象	×			
転入学試験	7月 (2017年9月入学)					
	9月					
	2月					

2018年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	公共	90分	問題を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

*この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2017年 9月 10日(日)実施

2018年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 9月一般入学試験
(公共領域)

問題

人々の幸福の具合・度合を計ったり比べたりすることについて論じてください。

(解答用紙 1枚(表・裏)にわたって論じてください。)

2018年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	生命	90分	問題1、2、3を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

* この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2018年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 9月一般入学試験

(生命領域)

問題1 次の文章は、ミシェル・フーコー『性の歴史 | 知への意志』「第五章」の一節である。これを読んで、以下の設問に答えよ。

生命に対する権力は、十七世紀以来、二つの主要な形態において発展してきた。その二つは相容れないものではなく、むしろ、中間項をなす関係の束によって結ばれた発展の二つの極を構成している。その極の一つは、最初に形成されたと思われるものだが、機械としての身体に中心を定めていた。身体の調教、身体の適性の増大、身体の力の強奪、身体の有用性と従順さとの並行的増強、効果的で経済的な管理システムへの身体の組み込み、こういったすべてを保証したのは、規律(*disciplines*)を特徴づけている権力の手続き、すなわち人間の身体の解剖 - 政治(*anatomo-politique du corps humain*)であった。第二の極は、やや遅れて、十八世紀中葉に形成されたが、種である身体、生物の機構に貫かれた身体、そして、繁殖、出生数と死亡率、健康の水準、生命の持続、それらを変化させる任意の条件によって変化する寿命といった生物学的プロセスの支えとなる身体に中心を定めている。それらを引き受けたのは、一連の介入と、調整する管理(*contrôles régulateurs*)、すなわち人口の生 - 政治(*bio-politique de la population*)である。身体の規律と人口の調整とは、生命に対する権力の組織化が展開する二つの極である。古典主義の時代において、このように——解剖学的であると同時に生物学的であり、個人化すると同時に種別化し、身体の性能へ向かうと同時に生命のプロセスに関与する——二つの面をもつ巨大なテクノロジーが設置されたという事実は、古典主義時代以降、その至高の機能がおそらくもはや殺すことにはなく、生命を隈なく占拠することにあるような権力の特徴となるのである。

(出典:ミシェル・フーコー(著), 渡辺守章(訳), 『性の歴史 I : 知への意志』, pp.176-177, 新潮社, 1986年
Michel Foucault, *Histoire de la sexualité I La volonté de savoir*, pp.182-183, ©1976 Editions Gallimard. <www.gallimard.fr>)

問1 「身体の規律」「身体の解剖 - 政治」の具体的事例を200字以内で説明せよ。

問2 「人口の調整」「人口の生 - 政治」の具体的事例を200字以内で説明せよ。

問題2 次の文章は、松井一郎・朝倉さか江編著『地域母子保健システム——障害の予知予防と早期発見・早期療育の実践』に寄せられた、須川豊による「序にかえて」の一部である。これを読んで、以下の設問に答えよ。

序にかえて

須川豊 (神奈川県立栄養短期大学長、日本公衆衛生学会理事長)

松井先生とは、私が神奈川県立こども医療センターの初代の所長を勤めていた時からの同学の友人である。

今から20年前、私が兵庫県在勤中に「不幸な子どもの生まれない施策」を展開し、先天異常の出生予防を全国的に訴えた。母子保健法の成立した時代である。それは全国的な反響をよび、母子保健施策を心身障害対策の前衛手段として再認識してもらったと思う。そして小児専門病院建設のきっかけとなったり、代謝異常発見のためのガスリー法の行政展開など、かなりの施策が実現した。しかし先天異常の発生要因は複雑多岐であり、行政施策としての結集は困難であった。

そこで先天異常の出生原因を究明するための追跡調査とともに「モデル的母子保健管理施策の展開」の実施を計画したのである。これは地域において実効のあがる母子保健ケアシステムを開発することで、子どもたちを健やかに生み育てるとともに、心身障害対策としては早期発見・早期対応を効果的に具現することがねらいであった。

それを、昭和 48 年 10 月発行の「母子保健推進のために」第 7 号（母子保健推進会議発行）に、「母子保健管理のシステム化について——モデル的母子保健管理施策の展開（案）」として発表した。[……] この計画案の発表以前から、神奈川県内の保健所と市町村を訪ね、地域選びをはじめている。そして最終的に逗子市で実施してもらうことになった。

【出典】松井一郎・朝倉さか江編著『地域母子保健システム——障害の予知予防と早期発見・早期療育の実践』（ぶどう社、1982 年、p. i - ii）

問 1 「不幸な子どもの生まれない施策」などが「行政施策としての結集は困難であった」理由や事情について、須川豊の叙述も考慮に入れながら、100 字程度で簡単に説明せよ。

問 2 「不幸な子どもの生まれない施策」から「モデル的母子保健管理施策の展開」へ移行していった経緯について、「出生予防」、「予知予防」、「早期発見・早期対応」の違いを考慮に入れながら、200 字程度で論評せよ。

問題 3 次の十四個の事項から三つの事項を選び、それぞれ 300 字以内で、争点とされていたこと、あるいは、争点とされていること、あるいは、争点とされるべきことについて、論述せよ。

- ① iPS 細胞と ES 細胞
- ② 低線量被曝
- ③ 開業医制度
- ④ 神経伝達物質と向精神薬
- ⑤ 二重盲検試験
- ⑥ 進化と心理
- ⑦ 文明病
- ⑧ 感染予防
- ⑨ 捨子
- ⑩ 慈善と生存権
- ⑪ LGBT
- ⑫ フェミニズムとクィアスタディーズ
- ⑬ 自己決定権
- ⑭ embodied cognition

2018年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	表象	90分	問題 1、2 を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

* この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2018年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 9月一般入学試験
(表象領域)

問題1 次の文章を読んで、設問(1)と(2)に答えなさい。
文字数は制限しないが、解答用紙の表面に収めること。

私たちはみな、リア王は存在せず、シェイクスピアの劇は虚構にすぎないと知っている。母親の膝の上で『ピーターと狼』は「ただのお話」であり、ピーターも狼もどこにもいはしないということ学ぶのだ。だが、リアやピーターといった登場人物は存在するのかと尋ねられたら、私たちが口にする最初の回答は、確かに存在するというものになる。まず最初に、分かりきったこととして、私たちは、ドラゴンもユニコーンも妖精も存在しないし、今までに存在したこともないと保証する。次いですぐさま、虚構の中ではドラゴンもユニコーンも妖精もその他すべてがもちろん存在する、と自分が認めていることに気づくのだ。この相容れない直観によって、虚構的存在者の存在論的地位という問題が生じるのである。

この直観の衝突によって、哲学者たちは見苦しい論理的曲芸をいろいろと考え出すことになった。ある人々は、存在すること (being) と実在すること (existence) の区別を導入する。つまり、在るものと、実在するものないし現実的であるものとの区別である。〔中略〕虚構的実在を享受するが現実的実在は享受しないとか、虚構領域に実在するが現実的には実在しないなどと言われるときもある。こういった仕掛けは、ヴードゥー呪術的な形而上学に見える。こんなものは矛盾を隠蔽するために考案されたごまかしだという印象は避け難い。リア王とその一行は、存在論上の立派な見かけを、ただ奪い取られるためにだけ供与されているのである。

(出典:ケンダル・ウォルトン(著), 田村 均(訳), *フィクションとは何か*, pp.380-381, 名古屋大学出版会, 2016年 Kendall L. Walton, *Mimesis as Make-Believe*, p.385, Harvard University Press, 1993. Reproduced with permission of Harvard University Press.)

- (1) 下線部の「直観の衝突」が生じている問題とはどのような問題であるか、各自の研究領域における事例を挙げて自分の言葉で説明しなさい。(40点)
- (2) その問題についての自分の見解を、引用箇所に含まれている哲学者たちの諸説との関連や差異を示しながら論述しなさい。(40点)

問題2 次の語句について説明しなさい。全10題のうち4題を自由に選択して答えること。
文字数は制限しないが、それぞれについて必要十分な記述を行い、かつ解答用紙の裏面に収めること。(30点×4)

- (a) 2.5次元
- (b) クリエイティブ・コモンズ・ゼロ
- (c) 行為遂行的発話
- (d) 窃視 (voyeurism)
- (e) ソーシャリー・エンゲイジド・アート
- (f) 超自我
- (g) データベース消費
- (h) トリックスター
- (i) パラテキスト性
- (j) 半透明性

2018年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

外国語（英語）

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	90分	問題1、問題2、問題3のすべてを解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 辞書の使用は許可するが、辞書機能付き電子手帳等の電子機器類の使用は認めない。
4. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

*この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2018年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 9月一般入学試験

(英語問題)

問題1 次の文章を読み、全文を和訳せよ。

The conflict over Palestine is unusual in many different ways, principally of course because Palestine is not an ordinary place. An almost mythological territory saturated with religious ideology and endowed with overwhelming cultural significance, Palestine has been weighed down with historical as well as political meanings for many generations, peoples, and traditions.

(出典: Edward W. Said, *Blaming the Victims*, p.1, ©1984 and 1986 by Grand Street Publications, Inc. Reproduced with permission of Verso Books.)

問題2 次の文章を読み、下線部(1)、(2)、(3)を和訳せよ。

この問題は、問題作成の都合上、公開することができません

問題 3. 「技術の逆説」について論じた次の文章を読み、その内容を200字以上、250字以内の日本語で要約せよ。

Technology offers the potential to make life easier and more enjoyable; each new technology provides increased benefits. At the same time, added complexities arise to increase our difficulty and frustration. The development of a technology tends to follow a U-shaped curve of complexity: starting high; dropping to a low, comfortable level; then climbing again. New kinds of devices are complex and difficult to use. As technicians become more competent and an industry matures, devices become simpler, more reliable, and more powerful. But then, after the industry has stabilized, newcomers figure out how to add increased power and capability, but always at the expense of added complexity and sometimes decreased reliability. We can see the curve of complexity in the history of the watch, radio, telephone, and television set. Take the radio. In the early days, radios were quite complex. To tune in a station required several adjustments, including one for the antenna, one for the radio frequency, one for intermediate frequencies, and controls for both sensitivity and loudness. Later radios were simpler and had controls only to turn it on, tune the station, and adjust the loudness. But the latest radios are again very complex, perhaps even more so than early ones. Now the radio is called a tuner, and it is littered with numerous controls, switches, slide bars, lights, displays, and meters. The modern sets are technologically superior, offering higher quality sound, better reception, and enhanced capability.

(出典: Donald A. Norman, *The Psychology Of Everyday Things*, pp.29-30, Basic Books, 1988. Reproduced with permission of Hachette Book Group, Inc.)

2018年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題（2月実施）

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	共生	90分	問題1、問題2、問題3の すべてを解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

* この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2018年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 2月一般入学試験
(共生領域)

問題1 以下から2つの用語を選択して、その意味をそれぞれ300字程度で説明せよ。

文化構築主義 パースペクティヴィズム 構造主義 多自然主義 口頭伝承 クラ交換 一般的互酬性
 サバルタン ボトラッチ 交差イトコ婚 ディアスポラ 災因論 実践共同体 戦略的本質主義
 エスノスケープ コミュニタス プリコラージュ トリックスター オリエンタリズム

問題2 カテゴリーAから3つの著作を選択し、それぞれの著者をカテゴリーBから探して記述せよ。

カテゴリーA (著作)

『黒い皮膚・白い仮面』 『野生の思考』 『オリエンタリズム』 『サバルタンは語ることができるか』
 『贈与論』 『アナキスト人類学のための断章』 『汚穢と禁忌』 『石器時代の経済学』
 『文化の場所』 『部分的つながり』 『菊と刀』 『精霊と結婚した男』 『西太平洋の遠洋航海者』
 『さまよえる近代』 『高地ビルマの政治体系』 『想像の共同体』 『アザンデ人の世界』
 『科学が作られているとき』 『国家に抗する社会』 『文化の解釈学』

カテゴリーB (著者)

- ①エドモンド・リーチ ②クロード・レヴィ=ストロース ③メアリ・ダグラス
- ④マルセル・モース ⑤クリフォード・ギアツ ⑥エドワード・サイード
- ⑦マリリン・ストラザーン ⑧フランツ・ファノン ⑨ベネディクト・アンダーソン
- ⑩ホミ・バーバ ⑪アルジュン・アパデュライ ⑫ルース・ベネディクト
- ⑬プロニスワフ・マリノフスキー ⑭マーシャル・サーリンズ ⑮ガヤトリ・スピヴァク
- ⑯ピエール・クラストル ⑰エドワード・エヴァンズ=プリチャード ⑱デヴィッド・グレーバー
- ⑲ブルーノ・ラトゥール ⑳ヴィンセント・クラパンザーノ

- (1) 著作 _____ 著者 (番号) _____
 (2) 著作 _____ 著者 (番号) _____
 (3) 著作 _____ 著者 (番号) _____

問題3 以下の文章を読み、設問に答えよ。

ベルリン高等研究所の客員教員として一年を過ごす前に自分の拙いドイツ語を鍛えようとしていたところ、ドイツ文化センターでにきび顔の10代の学生と一緒に毎日授業を受けるよりも、農場で働こうと思いついた。ベルリンの壁はたった一年前に崩壊したばかりだったが、東ドイツの集団農場(LPG)一近年では「協同組合」に再編された一で、六週間の夏季アルバイトをできるか調べてみた。(中略)

背水の陣ともいうべき方法でドイツ語を上達させるという計画は完璧だった。しかし、愉快で啓発的な農場訪問という計画は、悪夢のような大失敗だった。村人、とりわけ私のホスト・ファミリーは、私の目的に疑念を抱いていた。集団農場の会計を詳しく調べて「不正」を暴露しようとしているのではないだろうか、社会主義陣営が崩壊した後に土地を貸借しようと偵察しているオランダ農家の先兵ではないだろうか、といった疑念である。(中略)

自分も彼らも正気を保てるよう、私は一週間に一日ノイブランデンブルグという近隣の町で過ごすことに決めた。(中略)

ノイブランデンブルグからプレッツに戻って来られる一日一本の電車は、夜の10時頃に出発した。それを逃すと、この不慣れた町で浮浪者のように一晚を過ごさねばならない。そのため、少なくとも30分前には駅に着こうとした。六、七週間それを繰り返したのだが、興味をそそる同じシーンが毎週のように駅前で繰り広げられた。観察者として、また参加者として、それについてじっくり思索する時間があった。文化人類学者なら私流の参与観察と呼ぶであろうものをするなかで、私は①「アナキスト柔軟体操」という着想を得た。

ノイブランデンブルグには、駅の外にこの街の規模からすればとても大きな交差点があった。昼間には、多くの歩行者、自動車、トラックが活気よく行き交っており、それらを規制する信号機があった。しかし、やがて夕方遅くになると、車の往来はほとんどなくなり、今度は夕涼みを求める歩行者の流れが膨れ上がっていった。通常、午後九時から10時の間には五、六〇人ほどの歩行者がいて、彼らの多くはほろ酔い気味で交差点を渡っていた。信号は、夕方の大量の歩行者ではなく、昼間の車の往来を規制するように切り替わるタイミングを設定されているようだった。五、六〇人の人びとが、毎回のごとく交差点の角で信号が変わるのを辛抱強く待っていた。四分間、五分間、もしくはそれより長かったかもしれない。それは永遠に続くようにさえ思われた。メクレンブルク平野にあるノイブランデンブルグの地形は、バンケーキのように平らで見晴らしが良かった。交差点からそれぞれの方向をじっと凝視すると、たいい車道には車の往来がまったくなく一マイルほどを見渡すことができた。(中略)

この光景をのべ五時間ほど観察しているうちに、おそらく二回ほど、一人の歩行者が信号を無視して交差点を渡り始めた。その歩行者は、信号待ちをしている人びとの中で一斉に生じた非難のざわめきと舌打ちに逆らって歩き続けた。私もこの光景の一員となった。(中略)

周囲の批判の声と眼差しに逆らって単に通りを横断するだけでも、一体どれほどの勇気をふりしほらなくてはならないものかと私は驚嘆した。人びとからの非難の圧力に対して、私の合理的な確信はひどく脆く思われた。強い確信を抱いて交差点に向かって大胆に大股で歩き出すことは、より鮮烈な印象を与えた。だが、それをするためには、通常以上の勇気を奮い立たせる必要があった。

自分の行動を正当化すべく、完璧なドイツ語で話せると思像して、ちょっとした言い分を練習し始めた。それは、このようなものだった。「皆さんも分かっているでしょう。あなたたちは、とりわけあなたの祖父母たちは、法を破る精神をもっと行使できていたはずじゃなかったですか。いつの日か、あなたたちは正義と合理性のために、重大な法律を破るよう求められるでしょう。法律を破れるかどうかにかかわらずかかっているのです。その時に備えておかなければならないのです。本当にそれが求められる重大な時のために、あなたたちはどうやって準備をしておくつもりなのですか。その日が訪れた時に準備できているためには、しっかり「準備万端」のままにしておくべきではないでしょう。あなたたちには、「アナキスト柔軟体操」が必要です。常日頃から、たかが信号無視だけだとしても、理に適わぬいくつかの些細な法律を破るのです。自分の頭を使って、その法がちゃんと正しく理に合っているのか判断するのです。そうすれば、健康な心身の状態を保つことができ、重要な日が訪れた時に、あなたたちはしっかり準備ができているでしょう」。

(ジェームズ・C・スコット『実践 日々のアナキズム—世界に抗う土着の秩序の作り方』清水展・日下渉・中溝和弥(訳)、2017年、岩波書店、pp.1-6より抜粋)

この文章は、『モーラルエコノミー—東南アジアの農民叛乱と生存維持』(勁草書房、1999年)、*Weapons of the Weak: Everyday Form of Peasant Resistance* (弱者の武器—小作農の日常的抵抗の形態)(Yale University Press, 1987)、『ゾミア—脱国家の世界史』(みすず書房、2013年)などの著作で知られる、ジェームズ・C・スコットの『実践 日々のアナキズム—世界に抗う土着の秩序の作り方』(2017年、岩波書店)からの抜粋である。原題は、*Two Cheers for Anarchism: Six Easy Pieces on Autonomy, Dignity, and Meaningful Work and Play* (Princeton University, 2012)であり、直訳すると『アナキズムに万歳二唱—自律、尊厳、そして意味ある仕事と遊びをめぐる6つの断章』となる。

訳者の清水展によれば、この原題には、「アナキズムに手放して万歳三唱はできないけれど、それでも二唱はしたいという著者の思い入れと強い信念」があるとされる(pp.181-182)。本書でスコットは、「20世紀への変わり目にアナキスト思想のほとんどを支配したユートピア的科学的主義」(p.ix)にも「富、財産、地位の甚大な不平等を許容し、時には助長させもする、ある種の自由至上主義的なアナキズム」(p.xi)にも賛同しないことを明言している。スコットが万歳するのは、上からの管理と支配や、近代化プロジェクトの強要に対して日常的抵抗—ただならぬ仕事、空とぼけ、逃避、不法占拠、逃散など—によって不服従を表明したり、互酬的に協力・協調することによって混沌とした世界のなかに自律的な秩序を構築していく「日々の実践としてのアナキズム」である。訳者は、「一人ひとりのさりげない日常生活の行動のなかに、アナキストが希求する権力による監視と抑圧を弱く(無く?)し、個々人の自主・自律性を発揮してより望ましい社会を作ってゆく可能性があることを示す」という、スコットの意図を汲み、上記のような邦訳タイトルをつけたと述べている(p.181)。

以上を踏まえて、下線部①「アナキスト柔軟体操」あるいは邦題にある「世界に抗う土着の秩序の作り方」について、自由に論述しなさい。

(原作: James C. Scott, *Two Cheers for Anarchism: Six Easy Pieces on Autonomy, Dignity, and Meaningful Work and Play*, pp.1-5, © 2012 by Princeton University Press. Reproduced with permission of Princeton University Press.)

2018年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題（2月実施）

外国語（英語）

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	90分	問題1、問題2、問題3のすべてを解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 辞書の使用は許可するが、辞書機能付き電子手帳等の電子機器類の使用は認めない。
4. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

* この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2018年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 2月一般入学試験

(英語問題)

問題1 次の文章を読み、全文を和訳せよ。

There is nothing easier and nothing more contemporary than translation. Nothing easier because all you have to do is press that *translate* button at the top of your Internet browser. *Go ahead. Appuyez dès maintenant.* (*) There's nothing more contemporary because Google and Google Translate seem to go hand in hand. It's hard to imagine the immediate gratifications of the digital age without the immediate gratifications of digital translation: new words, in a new language, at your service.

注：(*)*Appuyez dès maintenant* = 「いますぐ押して」の意味のフランス語。

(出典:Rebecca L. Walkowitz, *Born Translated: The Contemporary Novel in an Age of World Literature*, p.1 Introduction, Copyright © 2015 Columbia University Press. Reproduced with permission of Columbia University Press.)

問題2 次の文章を読み、下線部 (1)、(2)、(3) を和訳せよ。

(1)Oral history interviews provide an invaluable means of generating new insights about women's experiences of themselves in their worlds. The spontaneous exchange within an interview offers possibilities of freedom and flexibility for researchers and narrators alike. For the narrator, the interview provides the opportunity to tell her own story in her own terms. For researchers, taped interviews preserve a living interchange for present and future use; we can rummage through interviews as we do through an old attic — probing, comparing, checking insights, finding new treasures the third time through, then arranging and carefully documenting our results.

Oral interviews are particularly valuable for uncovering women's perspectives. (2)Anthropologists have observed how the expression of women's unique experience as women is often muted, particularly in any situation where women's interests and experiences are at variance with those of men. A woman's discussion of her life may combine two separate, often conflicting, perspectives: one framed in concepts and values that reflect men's dominant position in the culture, and one informed by the more immediate realities of a woman's personal experience. (3)Where experience does not 'fit' dominant meanings, alternative concepts may not readily be available.

(出典: Robert Perks, Alistair Thomson, *The Oral History Reader 3rd edition*, p.179, © 2016 Robert Perks and Alistair Thomson. Reproduced with permission of Routledge.)

問題3. 「スロットマシンの歴史」に関する次の文章を読み、その内容を200字以上、250字以内の日本語で要約せよ。

Slot machines have been almost totally neglected by cultural historians and media scholars. Even historians of popular culture usually mention them only in passing, without analyzing them, or placing them into their original cultural contexts. The existing literature has been written almost exclusively by collectors and coin-op(*) enthusiasts. The current state of things does not do justice to the long-lasting popularity and wide cultural impact of these machines. One reason for the *damnatio memoriae*(**) is no doubt their near-ubiquity. When a phenomenon becomes too familiar and commonplace, it in a way turns invisible; we no longer pay attention to it. As counter-machines(***) opposed to work, productivity, and progress, slot machines have been considered trivial, an ephemeral form of spending (or wasting) one's time and money. The *damnatio* goes even further: not only have coin-ops been seen as trivial, they have been considered harmful as well, worth prosecution rather than praise. Of course, none of this provides an excuse for neglecting them, for slot machines are, to borrow an expression from Siegfried Giedion, an essential part of the "anonymous history" of our time. They have been a veritable laboratory for designing and testing forms of human-machine relationship. Perhaps it is only with the emergence of interactive media as a major cultural and economic force that their significance gradually becomes clear.

注：(*)coin-op：コイン式マシン (の) (**)*damnatio memoriae*：記憶の破壊 (***)counter-machines：「抵抗の機械」

(出典:Raessens, Joost, and Jeffrey Goldstein, eds., *Handbook of Computer Game Studies*, 200 words excerpt from page 15, ©2005 Massachusetts Institute of Technology, by permission of The MIT Press.)